

小山市立博物館

博物館だより

2010
3.15

50

第55回企画展

「小山の遺跡3～中世小山氏を中心に～」

小山市内には、現在419ヶ所の遺跡があります。

H22.4.24～6.13

このなかでも特に中世から近世にかけて活躍した小山氏の遺跡は、国や市の文化財として指定されています。近年の発掘調査では、祇園城跡や小山氏の館跡といわれる神鳥谷曲輪跡から、多くの出土品が見つかり、注目されました。

そこで、今回は、この2つの遺跡を中心に、市内に残る小山氏の遺跡を紹介する展示を企画しました。地域の歴史を知ること、地域のみなさんが小山市の過去と現在、そして未来を考える機会となれば幸いです。

■ 展 示 内 容

1. 小山氏の遺跡

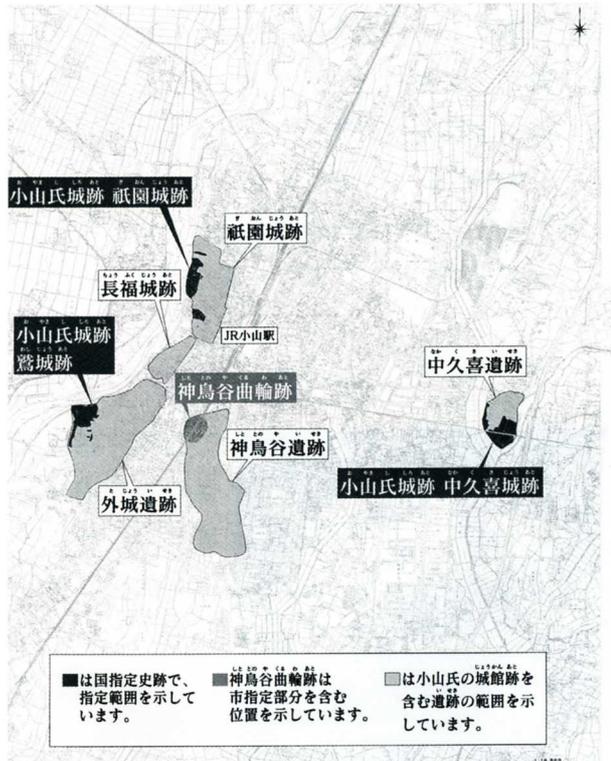
- 中世から近世の小山氏
- 小山氏の城・館

2. 発掘された遺跡

- 祇園城跡(本郷町・中央町・城山町)
- 長福城跡(八幡町)
- 神鳥谷曲輪と神鳥谷遺跡
(大字神鳥谷・神山・西城南)
- 鷺城跡と外城遺跡
(大字外城・大字神鳥谷)

3. 保護された遺跡

- 国指定 小山氏城跡(鷺城跡・祇園城跡・中久喜城跡)
- 市指定 神鳥谷曲輪



小山氏の城跡 位置図

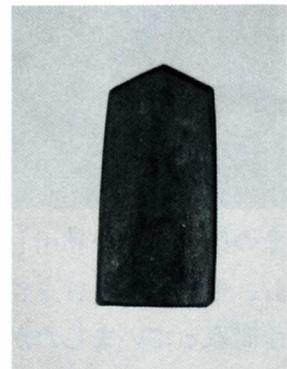
■ 主な展示資料



石塔類出土状況(祇園城跡)



青磁小杯(祇園城跡)



木製品(神鳥谷曲輪跡)

第54回企画展「甘味を贈る～和菓子の贈答文化～」を終えて



展示風景

この展示では、長い歴史と伝統に支えられてきた日本特有の食文化である和菓子を取りあげ、その歴史を振り返るとともに、和菓子が人々の暮らしの中でどのような役割を果たしてきたかを紹介しました。

中でも地域の特徴を示す、市内南小林で名主をつとめていた田波家の古文書に見られる和菓子の贈答記録や、市内菓子店に受け継がれてきた和菓子作りの道具などの資料は、来館者の興味を引いていたようです。また、期間中2回の季節の和菓子を添えたお茶席のサービスを実施、レプリカの和菓子の型を使って粘土の和菓子を作るコーナーや和菓子袋の折り紙などの体験コーナーも好評で、繊細な和菓子の世界に楽しみながら触れていただけたようです。



お茶席



体験コーナー「粘土で和菓子作り」



甲冑マイスター養成講座



近年「歴史ブーム」と言われ、テレビや新聞・雑誌等で歴史上の人物や使用された武具が取り上げられ話題となっています。また小山市は、徳川家康が天下分け目の関ヶ原の戦いを前にして石田三成挙兵の報を受け、家臣たちを集めて「小山評定」とよばれる軍議を開いた土地であり、これを全国に発信するため、評定に参加した武将たちの複製鎧10領を購入しています。そこでこうした歴史ブームを機会に、購入された複製鎧の有効活用を図るとともに、郷土の歴史についてより深く理解していただくことをねらいとして、本講座を開催しました。

11月15日から毎日曜日に行われた3回の講座では、まず甲冑に関する知識を深めていただくため、市内出身の歴史研究家、伊澤昭二氏を講師に迎えて甲冑の歴史や機能、構造について学習しました。その後複製鎧を利用して、実際に身に着けた時の感触を体験していただくための着付け方法を学習し、その知識をさまざまな機会にも行えるよう、一般入館者への着付け体験を行いました。最初は手間取っていましたが、回を重ねるごとに短時間で姿良く着付けさせることができるようになり、着付け体験参加者のみなさんともども武将気分を満喫することができました。

収蔵資料案内



や鳥の剥製などの資料があります。

昆虫標本は、職員が捕まえてきたものや市内の昆虫愛好家の方から頂いたもの、剥製も頂いたものや事故などにより死んでいたものを剥製にしたものなどで、開館から27年がたち、資料の数も増えてきました。

これらは、なかなか日の目を見ることはありませんが、機会あるごとに展示していきたいと思えます。

当館は考古、歴史、民俗資料を保存・公開する目的で作られた博物館であり、自然資料を展示や収蔵する部屋はありませんでした。しかし、開館当初から理科を専門とする指導主事が配置され、自然教室や野鳥観察会、昆虫標本作り、市内の小学校を対象にした昆虫教室など自然に関する事業が行われてきました。そのため昆虫の標本



小山市少年少女発明クラブ

当クラブは昭和59年に設立され、今年で27周年を迎える歴史あるクラブです。創造性豊かな子どもの育成を目指しています。毎月第1・3日曜日の午前中を活動日とし、10名の指導員と共に小3年～小6年の35名が基礎工作やアイデア工作に取り組んでいます。

家庭や学校の制約を離れ、年齢も学校も違う仲間たちとの活動はふだんの生活では体験できない楽しさがあります。ノコギリで切る、カンナをかける、釘を打つ、キリで穴をあけるなどは初めての体験という子がほとんどです。これらの道具を知らない子もいます。

紙の工作、木の工作、電気の工作などの基礎工作を経て、6月からは県の発明工夫展に出品する作品を各自のアイデアを生かして作りはじめます。発想から設計、そして何度も試行を重ね、作品が完成したときの喜びはとても大きなものです。この発明工夫展には毎年多数の児童が、当クラブより入賞しています。



少年少女発明クラブは発明協会を母体とする全国組織です。全国に205のクラブがありますが、栃木県にはひとつしかありません。例年応募者が多いため抽選での入会になっていますが、既成のおもちゃや電子ゲームがあふれる現代、手づくりのおもちゃやものづくりの楽しさをひとりでも多くの子どもたちに知ってほしいと願っています。

季節の一枚「タゲリ」



長い冠羽が特徴的な冬鳥です。体の上面は暗緑色ですが、光沢があり、光に当たるときれいに輝いて見えます。また、体の下面は白く、羽は先から半分くらいまで黒で、飛んでいると、白と黒の



コントラストが鮮やかです。

田んぼに良く見られ、群れていることが多く、博物館の近くでも見られます。冬の間しか見られませんが、きれいな鳥ですので、探してみてください。

コラム博物館職員雑記帳

「変わること」、そして「変わらないこと」

指導主事 田村 浩一

昭和58年に開館し、27年の月日が経とうとしているここ小山市立博物館。これまで展示会をはじめ、多くの事業や活動を行ってきました。その中で、開館当時から行っている学校連携事業は、当館の特色として挙げられる事業の1つです。現在、歴史学習、昆虫教室、郷土学習、天文教室の4つの事業は、小山市内の全小学校(27校)が利用して下さっています。職場体験学習や施設見学などの事業も含めると、市内だけでなく他市町の小中学校、高校からのご利用もあります。これだけ多くの学校が利用して下さる背景には、学校をはじめ関係機関の御理解、御協力、また開館以降この事業に関わった多くの担当者の努力があったということは、言うまでもありません。特にこの事業を計画したころは、学校教育と社会教育の連携についての資料が乏しく、暗中模索の状態であったそうです。そんな中であっても、「学校で学ぶ子どもたちに、博物館はいったい何が出来るだろうか。」という思いから始まったとのこと。その熱意と苦労は、計り知れません。

生涯学習、社会教育の重要性が叫ばれている現在、「学社連携」から「学社融合」という一歩進んだ考え方が提唱され、多くの社会教育施設でこの新たな形態が模索されています。定着してきたこの事業にも課題は山積です。課題解決に向けて動きながらも、前述した先輩方の思いは見失うことなく、「博物館でできること」と「博物館でもできること」を確認しながら、「子どもたちのために」よりよい事業をめざしたい、そう考えます。

寄贈者芳名(平成21年7月～12月)

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- 生井康誠(小山市)……………石 鏝 44点
- 松本隆一(小山市)……………古文書 2点
- 小池篤、小池玲子、小池杉夫(群馬県館林市)
下野国都賀郡祇園城全図
- 岡田将夫(小山市)……皆既日食写真資料
12点
- 山中ヒサ子(小山市)……………書 籍 1点
- 高館十二八(小山市)……………イケス 1点
トビクチ 1本、「大谷村軍友規約」1点
- 松本光夫(小山市)……………竹細工《花籠》
1点

平成22年度展示予定

第55回企画展

「小山の遺跡3
～中世小山氏を中心に」
H22.4.24～6.13

栃木県立博物館移動展

「脊椎動物の世界(仮題)」
H22.7.17～8.22

第56回企画展

「桑つみ唄と小山の養蚕」
H22.11.20～H23.1.23



博物館友の会 会員募集

新年度の友の会会員を募集しています。

企画展の無料観覧、友の会主催研修旅行、講演会への参加などの特典の他、5つの学習部会があり、その活動成果を年2回の作品展で発表しています。

詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



発行年月日/平成22年3月15日
発行/小山市立博物館
〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7
(JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)
電話/(0285) 45 - 5331
ファックス/(0285) 45 - 5247
印刷/(株)尚文堂印刷所